

## 草創期にみる熱き日本のロータリアン

ロータリー理念研究委員会  
海寶 勘一  
(千葉西RC)

ロータリーの理念を学ぶほどに、時々の歴史背景が大きな意味合いをもち、理解できるための心強い裏付けとなってくれます。1920(大正9)年に東京クラブが誕生した時、日本の創始者である米山梅吉翁や福島喜三次氏の功績はあらゆる場面で知る機会があります。草創期に尽力された多くの方々にも目を向け、見識を深めることの価値は大きいものがあります。米山記念奨学の基礎を構築した古澤丈作氏の活躍も偉大であり尊敬できます。1928年(昭和3)年に設立の大連クラブ会員で日清製油大連支店長であった古澤氏は、英文で書かれた「職業倫理訓」11条の奥義を会得しつつも、まったく純粋な日本語に書き起した「大連ロータリー倶楽部申し合せ」という宣言文5項を創作しました。当時第70地区(初代ガバナーは米山梅吉翁)第3代村田省三ガバナーが宣言文をガバナー月信に掲載してから、日本のロータリアンに広く知られるようになりました。弧高に学ぶ貪欲さからロータリーの本髄を習得されたようで、当時の純粋さと熱き情熱が宣言文から伝わってきます。この宣言文は、職業人の倫理訓を踏まえて、ロータリーの精神を表現した信条だと評価することができ、自己を律する宣言文に米山翁も絶賛しロータリアンの鏡だと古澤氏を讃えました。第1項は、職業奉仕の本質を明快に表現し、第2項でシェルドンの提言を説明し、第3項は職業人の精神をより追求し、第4項はロータリークラブの本質を明言し、第5項は国際奉仕の理念の宣言と寛容の精神を説き、それぞれに格式高く丁寧に倶楽部の申し合わせ事項として明記されました。当時の日本人の崇高な思想と貪欲な学びの一面を垣間見ることができます。1936(昭和11)年の地区大会で神戸RCの直木太一郎氏によって、第70地区の綱領にしようと提案がされた時には賛否両論が侃々諤々となり、米山梅吉翁の苦渋の判断で実現には至りませんでした。当時のロータリアンが良質な職業人としての誇りを自負し、お互いに切磋琢磨し合って自己研鑽の極限を求めている実直な姿に深く敬服させられます。戦時中のロータリー活動は軍部によっての厳しい弾圧が強くあり、クラブ解散の憂き目にあうのですが、それでも日本各地の良質な経営陣であるロータリアンを矜持

して、クラブ例会の開催曜日を冠した集会名に変えて秘かに開催していました。各自が個人倫理の研鑽は質が高く、黙々と集会が継続されていた執念には感服させられます。終戦後に国際ロータリー復帰運動が盛んになりますが、東京水曜会の柏原孫左衛門氏が日本各地で集会を引き継いできたクラブを訪問し、国際ロータリー離脱後の活動を愚直なほどに実態を詳細に調べ歩きました。当時は全国への夜汽車の旅は劣悪そのものでしたが、半数以上のクラブがロータリーの伝統を継承している実態が判明でき、国際ロータリー復帰への大きな要因になりました。この柏原氏の献身的な行動と男気を高く評価する文面を目にした時、千葉クラブ創立時の特別代表を務められた親近感が湧き起こり感激深く読むことができました。古澤丈作氏は転勤で東京クラブに移籍したのですが、入会経緯は親炙する米山翁からの誘いに因るものであり、その感謝を込めた偉業としては、山翁の威徳を偲んだ米山基金を創設し基金の拡充に奔走されました。米山奨学基金という東京クラブの事業が、第60と61地区共同事業として支持決議がなされたのは1956年の両地区の地区大会においてでした。米山梅吉翁や古澤丈作氏の基本思想は、人と人との信頼関係を優先し職業人の大切な事業発展に結びつけていくことを示唆し、資質高いクラブ会員を育成するという命題を真剣に実践されたことです。改めて草創期のロータリアンの情熱と偉業や人となりに感服し、その精神を会得する必要性を感じております。2011年に職業宣言は行動規範と改められましたが、今こそロータリアンとしての高潔性と高い倫理基準を修得する時です。崇高な人間性を尊重し、尊敬しあう善き職業人の集まりであればこそ、例会では純粋な熱き学びあいを心がけたいものです。

参考資料 (小堀憲助著「ロータリー・クラブ」 佐古亮尊著「ロータリーの森を歩く」 神崎正陳氏「クラブ卓話」)

ロータリー理念研究委員会  
海寶勘一 (千葉西)、平山勝己 (千葉若潮)、  
大内 啓 (柏南)、島 正彦 (館山)、松田泰長 (成田)